

第2回福島イノベーション・コースト構想推進本部会議 議事録

■ 日時：平成29年7月25日（火） 11：30～11：40

【鈴木副知事】

ただいまより、第2回福島イノベーション・コースト構想推進本部会議を開催します。

議題1つ目、一般財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構の設置について、企画調整部長。

【企画調整部長】

資料1を御覧ください。一般財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構の設立についてです。5月に施行されました、改正福島復興再生特別措置法により法定化されました、福島イノベーション・コースト構想を推進する中核的な機能を担う法人として、この一般財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構を設立するというものでございます。

この法人は改正特措法に基づいて今後作成いたします重点推進計画において、構想推進の実施主体として位置付けることを目指しております。

設立初年度となります今年度は、まずは、準備期間ということで平成30年度から本格業務を開始するための準備業務を当面の間は行うことにしております。

法人の目的と事業については、この構想を推進し、浜通り地域等の復興及び再生、さらには本県の社会経済の発展に寄与することを目的とし、事業としては1から9までありますが、ロボット産業や農林水産分野など構想の重点分野におけるプロジェクトの創出促進等々、あるいは情報発信を行いまして、今後拠点が出来ていくのにしたが、公の施設の管理・運営ということも考えております。

組織体制図については、理事会の下に法人の企画運営に関する業務を行うコーポレート部門と、ロボット部門の二つをおき、このような体制としたいと思っております。

設立時の役員につきましては、右側に記載の方々の就任を予定しております。

先ほど申し上げましたように今年度は準備業務が中心となりますけれども、来年度に向けましてしっかりとした体制を整備するとともに、構想に関する情報発信などを積極的に展開し、構想を加速してまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。

【鈴木副知事】

今の説明に関して、商工労働部長。

【商工労働部長】

商工労働部としましては、構想に掲げられているロボット、エネルギー、環境リサイクル等の重点分野について地元企業等の実用化開発に対する支援などに引き続き取り組むとともに、現在整備を進めております福島ロボットテストフィールド等の拠点施設を核として、積極的に産業集積を進めていくこととしております。

取組を含め、本推進機構と幅広く連携しながら、先進的な産業の育成・集積を図り、さらなる構想の具体化に取り組んでまいります。

【鈴木副知事】

農林水産部長。

【農林水産部長】

推進機構の設立によりまして、農林水産分野において、企業または研究機関との接点や情報共有の機会が増えるということが期待されております。

産学官連携の下、引き続き農林水産分野の8つのプロジェクトをしっかりと推進いたしまして、浜通り地域の営農再開を加速してまいりたいと考えております。

なお、8月下旬に農水省、それから経産省と連携して農業の先端技術を体験するイベントを開催いたします。機構とも連携してこの取組を進めてまいります。以上でございます。

【鈴木副知事】

教育長。

【教育庁教育次長】

福島イノベーション・コースト構想の実現に貢献する人材の育成について、小高産業技術高等学校やふたば未来学園高等学校の取組に加えまして、工業及び農業分野において即戦力となる技術者のほか、トップリーダーとなる研究者や起業家などを育成するため、6月補正予算において構想対象区域内の9つの高等学校の特色を生かした魅力ある教育プログラムの開発に向けた調査研究を行うことといたしました。

今後は教育プログラムに基づいた、高等学校における特色ある教育活動の充実や、教育環境の整備に加えまして、義務教育段階からの系統的な理数教育やグローバル教育などの予算措置についても、国に働きかけながら新たに設立され

る本法人としっかり連携して、構想を担う人材育成に取り組んでまいりたいと思います。

【鈴木副知事】

他にありませんか。なければこの案の通り設立の手続きを進めることといたします。

次に、報告事項です。福島ロボットテストフィールドの完成予想図について、商工労働部長。

【商工労働部長】

資料2「福島ロボットテストフィールドの完成予想図について」を御覧ください。

「福島ロボットテストフィールド」は、物流やインフラ点検、大規模災害などに対応する陸・海・空のロボットの実証や先端研究の場として活用が期待されるものであり、浜通り地域へのロボット産業の集積と雇用の創出を目指して整備するものでございます。

昨年4月に、立地場所を南相馬市及び浪江町に決定した後、有識者による意見を踏まえて施設設計を進めてまいりましたが、今般、南相馬市に整備する部分について、基本設計の完了に伴い完成予想図を作成しましたので、報告するものでございます。

1ページをお開きください。「福島ロボットテストフィールド」の全景で、南相馬市原町区萱浜地区の南相馬市復興工業団地、約50haの敷地に整備するものでございます。

2ページが施設の概要でございます。左から「無人航空機エリア」、右に行きまして「水中・水上ロボットエリア」、「インフラ点検・災害対応エリア」、そして「テストフィールド本館」及び「国際産学官共同利用施設」から成る「開発基盤エリア」の4つに分かれております。

3ページ目ではありますが、まずは「無人航空機エリア」については、ドローン等を自由に飛ばせる国内最大級の「緩衝ネット付飛行場」を整備いたします。また、長さ500mの「滑走路」には、「滑走路附属格納庫」を併せて整備し、1階に大型の無人航空機が格納できる格納庫、2階には滑走路を一望できる計測室を整備いたします。

次に、「インフラ点検・災害対応エリア」の各施設を紹介いたします。4ページではありますが、高さ5m、長さ50mの「試験用橋梁」、5ページに移りまして、幅6m、長さ50mの「試験用トンネル」、6ページになりますが、6階建て、高さ30mの「試験用プラント」で、この施設と先ほどの「試験用トンネル」

では、2020年開催の世界ロボットサミットで、世界中の研究チームが参加して、災害対応や点検のロボットを用いた競技を行います。続いて7ページをお開きください。ビル2棟と住宅5棟などからなる「市街地フィールド」、次のページであります。瓦礫散乱や土砂崩落を模擬した道路などからなる「瓦礫・土砂崩落フィールド」となっております。この施設は、インフラ点検、災害時に用いるロボットの試験や訓練ができる国内随一の場所として、研究者はもとより防災関係者の利用が期待される施設であります。

次に9ページをお開きください。「水中・水上ロボットエリア」の「水没市街地フィールド」は、水深最大5mのプールに水没した家屋を模擬し、ロボットの試験を行うほか、ヘリコプターを使った防災訓練などにも用いることができます。10ページをお開きください。屋内施設について、「水流付大深度水槽」は、深さ7mの大型水槽であり、水中ロボットの試験ができる国内最大規模の屋内試験場として整備するものであります。

以上、これら施設につきましては、平成30年度から順次開所を目指し、来月より実施設計に着手して、この秋には、各施設の開所予定時期を公開したいと考えております。

引き続き、国や地元自治体と密接に連携を図りながら、着実に事業を進め、福島イノベーション・コースト構想の実現に向け、全力で取り組んでまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

【鈴木副知事】

最後に知事からお願いいたします。

【知事】

ただ今、説明がありました福島ロボットテストフィールドは、物流やインフラ点検、災害対応など、陸・海・空にわたるロボットの試験・実証の場を提供するほか、性能評価や製品認証といった福島にしかない機能を備えることにより、世界に類をみないロボット開発拠点として、大きな期待が寄せられています。

さらに、2020年の世界ロボットサミットの一部競技の開催は、復興に向かう浜通りの姿を世界にアピールする絶好の機会となります。

地元の南相馬市・浪江町を始め、関係機関と連携しながら、着実に整備を進めてください。

また、今設立を決定した推進機構については、研究・技術開発の創出促進や産業集積を始め、人材育成の支援、交流人口の拡大、情報発信の取組など、構想の中核的な機能を担うものであります。関係部局としっかりと連携をし、来年度以

降の本格業務開始に向けて準備を進めてください。
以上です。

【鈴木副知事】

以上をもって本部会議を閉じます。